

白岡梨物語

埼玉県白岡市
白岡市観光協会



花掛け

江戸時代から始まった梨栽培の歴史

埼玉県の梨栽培は、江戸時代から始まったと伝えられています。この梨栽培が農業経営に組み入れられるようになったのは明治10年代になってからのことです。県内の古くからの産地は、旧大宮市宮原・三橋地区、本庄市、熊谷市、嵐山町菅谷地区などです。

白岡市の梨栽培のさきがけ

白岡市に梨栽培が伝授されたのは明治36年、荒井新田の加藤喜助家で3反(30アール)に230本の梨の木が植えられたのが最初です。また、同43年には上野田の小島好太郎家に伝わり、さらに知人や縁故先を通じて広められました。当時は梨栽培の技術習得について、教授料的なものを支払って習得したといえます。



身長が低い人が作業に使う高下駄と出荷用の梨籠

梨の共同出荷

梨の出荷は組合による共同出荷が行われるまでは、個人出荷で行われていました。大正9年には出荷組合が設立されました。写真は昭和12年の旧日勝村の果実出荷組合での出荷の様子です。写真の建物は旧日勝村役場です。梨屋さんが各自で詰めた梨籠をリヤカーで出荷所まで運び市場出荷を共同で行いました。



梨の出荷風景(昭和12年)

人工授粉を必要としなかった頃には、梨の花の咲く時期に盛大な花見が催されました。写真は、大正10年頃の大山地区での花見会の様子です。梨園に紅白の幕が張りめぐらされ、万国旗が掲げられています。産業組合、市場関係者、運送業者、役場職員などを招待して行われました。写真には芸者も見られ、組合員は揃いの手ぬぐい、半纏を着込みました。



梨の花見会(大正10年)



出荷組合で作った手ぬぐい

梨のことは

梨の栽培や技術、梨の出荷などに栽培農家などは、独特の言い方をします。

ナシヤマ(梨山) 梨栽培農家では、梨園のことを、ナシヤマ(梨山)、ナシバタケ(梨畑)などといえます。

ヤマハジメ(山始め) 梨の収穫が始まる7月末ごろに、生産者や市場関係者などが集まり、これからの出荷計画や梨の出来などを話し合い、収穫を祝う会のことをいいます。

ヤマジマイ(山終い) 梨の出荷作業が一段落した頃に、生産者や市場関係者などが集まり、収穫が無事に終わったことを祝う会のことをいいます。

梨栽培の恩人 五十嵐八五郎

白岡市やその周辺の梨栽培普及に導いた恩人として「五十嵐八五郎翁」がいます。八五郎翁は旧菟蒲町に生まれ、旧川本町の五十嵐家の養子となりました。梨栽培に関心を持ち、群馬県や千葉県などで梨栽培を学び、明治17年に帰郷しました。その後、出身地の旧菟蒲町や白岡市で梨栽培技術の普及に努め、今日の埼玉梨の礎を築いた人です。八五郎翁の性格は几帳面で、読んだ新聞はきちんと畳んでテーブルの上に乗っすぐに置くような人でした。また、時代の先端を行く人で、村で一番はじめに自転車に乗りました。酒は強く、剣道が得意で、男気のある豪快な面も兼ね備えた人でもあったといわれています。



梨の記念碑

梨の民俗

梨は「無し」に通じるため、縁起言葉として「有の実」と言い換えることもあります。また、家の建材に梨を使えば「何も無し」で盗難にあわない、鬼門に植えて「鬼門無し」と喜ぶところもあります。

梨の呼称

梨は幾つかの呼び方があります。

アカナシ(赤梨)

幸水・豊水・長十郎などのように表皮が赤い梨。

アオナシ(青梨)

二十世紀などのように梨の表皮が青い梨。

ハリナシ(針梨)

害虫(ヒメクイムシ)に刺された梨。

イシナシ(石梨)

固い梨のこと。樹齢の経った木に成ることがあります。



アカナシ

梨の生産暦 (梨園によって多少異なります。)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
せんてい 剪定	作業内容	余計な枝を切り落とすなどを行う											
	目的	枝に十分な栄養を行き届かせるため											
めいじん 誘引	作業内容	枝を棚に縛り整える											
	目的	作業し易く、枝に均等に栄養を行き届かせるため											
てりばい 摘蕾・摘花	作業内容	過剰な蕾・花を摘む											
	目的	果実に集中して栄養を行き届かせるため											
ばさけけ 花掛け	作業内容	人工的に授粉させる											
	目的	安定した収穫を得るため											
てりばい 摘果	作業内容	果実を間引く											
	目的	果実に集中して栄養を行き届かせるため											
ふくろの 袋掛け	作業内容	肌が弱い果実に袋を掛ける											
	目的	害虫などから果実を守るため											
しゅうかく 収穫	作業内容	梨を収穫する											
	目的												
どろのり 土壌管理	作業内容	雑草除去や肥料散布などを行う											
	目的	次期収穫に向けての準備のため											
ぼうじ 防除	作業内容	薬剤散布などを行う											
	目的	害虫や病気から木や果実を守るため											



剪定風景



選果センター

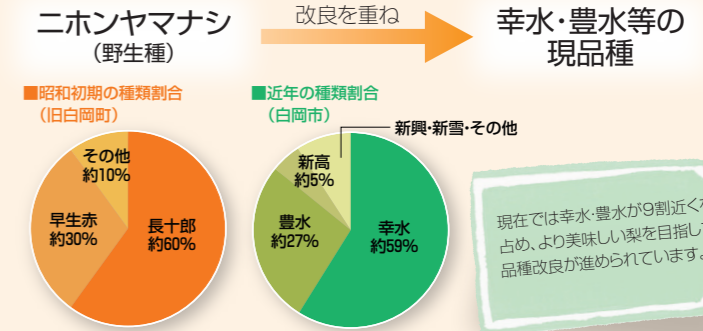
市内で生産されている主な品種

梨は「日本梨」「西洋梨」「中国梨」の三種に分けられ、日本梨には赤梨と呼ばれる幸水・豊水等、青梨と呼ばれる二十世紀・八雲等の品種があります。白岡では幸水・豊水が生産量の多くを占めています。

- 幸水(こうすい)** 8月上旬～
白岡で生産される梨の約59%を占める。柔らかい果肉に強い甘みを持つ人気品種。
- 彩玉(さいぎよく)** 8月中下旬～
埼玉県で開発された大玉の新しい品種。非常に甘い埼玉ブランドのジャンボ梨。
- 豊水(ほうすい)** 9月上旬～
白岡梨の約27%を占める。適度な酸味を含み、柔らかく甘い多汁な果肉。
- あきづき** 9月上旬～
高糖度で果汁も豊富な大きめの果肉。
- 新高(にいたか)** 10月上旬～
平均果重500g程度。日持ちが良く適度な歯応え。
- 新興(しんこう)** 11月上旬～
梨特有の香りと程良い甘みと酸味を備えた大玉品種。
- 新雪(しんせつ)** 12月上旬～
大玉で貯蔵性が良く、食べ応え充分。

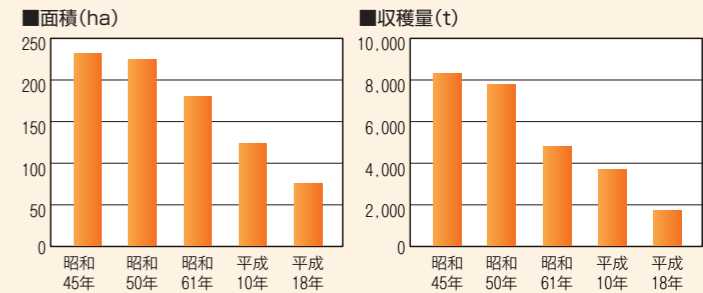
品種の変遷

白岡に梨栽培が伝わって以来、長十郎という赤梨が多く生産されてきましたが、昭和53年の干ばつを境に幸水・豊水が少しずつ増え、昭和58年には幸水・豊水の方が多くなりました。



梨生産の変遷

梨の生産は年間を通して沢山の作業があり、非常に大変であるため、後継者不足(若者の農業離れ)によって梨の生産は減少の一途を辿っているのが現状です。



白岡の梨の販売等

四季の恵みの里 しらか味彩センター
白岡市千駄野398
電話/FAX:0480-93-9800
地元の農家で生産した採れたて新鮮野菜・果物等の直売所です。

南彩農協白岡農産物直売所(ふれあいハウス)
白岡市柴山1451
電話/FAX:0480-97-0434

多数の新鮮野菜、シーズンには特産の梨を取り揃え、生産者と消費者双方に親しまれています。

JA南彩 白岡営農経済センター
白岡市柴山1451
電話:0480-97-0393
梨に関するお問い合わせはこちらへどうぞ。

梨を利用した特産品

白岡特産館
白岡市小久喜1053-7
電話:0480-91-0388
名産の梨を活用した商品をはじめ、市が一体となって生み出した白岡オリジナルの自信作が店頭に並びます。



梨栽培の歴史

当時の梨栽培は、明治期から始まりました。この梨栽培の普及の契機として明治43年の大水害があげられます。他の作物は壊滅的な被害を被ったのに、梨は棚がけをしており、ほとんど被害を受けることなく、舟に乗って収穫することができました。